

閉会の辞

産業経営研究所所長 小 卷 泰 之



所長をやっております小卷と申します。

本日は多数の皆さま、最後までこのシンポジウムに参加していただきまして、まことにありがとうございます。今回は4名の先生方をお迎えして、エネルギーに関する最先端のお話をお伺いできたと思います。2011年の原発事故以降、脱原発・非原発を含む再生可能なエネルギーへの転換の必要性が示される一方で、経済的な効率性からの問題点が指摘されるなど、エネルギー問題は錯綜しているのが現状です。もっとも、エネルギー問題はここですぐ解決できる問題ではなく、また私たちか避けて通ることができない喫緊の課題でもあります。このような中で、アカデミックな見地から、次世代を担うエネルギー資源の現状と課題についてお話を伺えたことは、今後のエネルギー問題を検討する上での重要な示唆になったのではないかと考えます。

私たち産業経営研究所では、アカデミックな立場、そして産業の立場で、産学での研究も進めております。60年という還暦を迎えまして、これから70年、100周年と、いま何を考えなければいけないのか、私たちはどういう課題に直面しているのか、常に情報発信し、アカデミックな立場からの提言の必要性を再確認したところです。毎年やっております月例研究会では、最先端の技術を紹介し、その問題点と課題を取り上げて、皆さまに情報提供していければと思っております。今後とも皆さまのご支援、ご鞭撻をよろしくお願いしたいと思います。

時間を超過して申しわけございません。これにて60周年記念シンポジウムを終わりにしたいと思います。

皆さま、本当に今日はありがとうございました（拍手）。